

明るく房後

房後連絡協議会 編集
平成十六年九月二十一日発行
第二一〇号

今年の秋の採り入れ

順調に進行中

「これから収穫祭の準備を

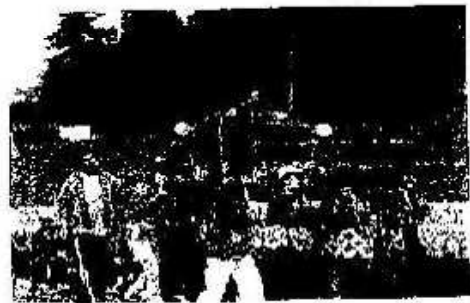
台風で倒伏した稲もだいたい刈り終えて、遅い稲米などを残すのみとなり、秋の採り入れも終わりに近づきました。(なお、稲の被害があった場合は共済に届けてください。)これからは、農事に収穫を終え、恒例の「房後収穫祭」に農作物の展示で採り入れることとなります。その日を楽しみに、さあ頑張りますよう。

石田山神社

秋祭り終わる

十八日(土)の前夜祭の神楽は、例年通り羽佐竹神楽団によって奉納されました。当日は朝から小雨の降るあいにくの天気でしたが、ふれあいセンターのホールがあるので大丈夫、屋内で上演出来ました。
今年十一月前夜祭(房後舞人神楽団)が「房後」を舞いました。構成は(以下敬称略) 大太鼓 西原貴文(支) 小太鼓 品田舞(中) 二 西原利緒(中二) 手打鼓 川崎智之(中二) 舞 森川純三(羽佐竹神楽団) 舞 川崎真二(支) 川崎達也(高二) 田丁優也(中一) 松川勝巳(支) 西原龍之進(中二) 田中要(支) 神田真史(中一) の大人と子供の混成で思わず笑いも出るような熱演が繰り広げられました。羽佐竹神楽団も団長の挨拶にもありましたが、房後から七名も参加して、羽佐竹

房後神楽団と呼べそうなので親近感いっぱい神楽でした。
十九日の本祭に先立っての氏子入りでは、上安陽人ちゃんが両親に伴われて受けられました。
祭りの後の御旅では妻の会と、子供達が全員法被姿で御輿を担ぎ、御旅所からさらに新迫からゴルフ場にかけて練り廻りました。なお、この祭には、納涼祭にも参加されたミヤンマーのタイダーさんが研究のために参拝、玉串奉奠をされ、御輿担ぎも最後まで付き合ひ、祭の感想なども話して、若い人との交流を深めました。



風台屋十八号吹き抜ける

今日七日午後、時ごろから五時ごろにかけて、めったにない猛烈な台風十八号が房後を吹き抜きました。その前の十五号は台風の中心が通ったには被害も少なかったのですが、今回は中心が西に逸れていたのに、ピニール屋根や棟瓦が飛び、色づいていた稲や畠もの、それに柿や栗などの果樹類が倒伏、落果したりする大きな被害を受けました。

公的なものでは、ふれあいセンターの玄関前にこの春植えられた櫻は大丈夫でしたが、地形の関係もあってか、新迫の日願山公園に昨年植えた櫻五〇本が全部倒されました。東西に細長い谷間を通り抜けた西風がともに当たったためです。幸い幹が折れなかったもので、翌日、井田耕策さんと松浦明夫さんが半日ばかりで起こして支柱をやり替え、元通りになりました。

明泉寺永代経法座

期日 十月二日(土)
朝席 九時半 昼席 一時
御講師 羽佐竹 万福寺
拜志 學堂

今年の本山参拝旅行は
十一月十二(金)・十三日(土)の
予定で計画中です。ご参加下さい

ふれあいサロン

今月は十五日に実施、参加者は三十二名でした。船木の山縣貞子先生から歌の指導を受けました。来月は二十日(水)で高美園介護支援センターの松本さんに誰もが関心を持つ介護保険の話をお聞きしております。

市民舞の祭典へ

幼女性会が出演されます

来月十一日の体育の日に、田園パラッツォにおいて「けんみん文化祭ひるしま、〇4 民謡民舞の祭典」が開かれますが、地元高宮町を代表して幼女性の(広島県民謡 房後支部)が、「観城節」を踊られます。午前の部の始めから三番目です。一番目が首戸町の唄で「首戸の舟唄」、二番目が神辺町で総勢四十一人が唄と踊りの「福山とんど」、房後はその次で、演技開始予定時刻、十時五十七分となっています。

当日は午後二時半まで、県内各地から総勢四百二十人、三十三団体がこの田園パラッツォの舞台で日頃の練習の成果を発表されます。午後の出演者も午前中は観覧することも考えられますので、安心してよい場所です。くりと観覧し、応援するためには、十時半の開会式までに会場に入っているのがよいでしょう。近い所なので行ってみましょう。

高美園では敬老の日より一足早く、十二日の日曜日午後二時から恒例の敬老会が開かれましたが、そのアトラクションに今年も房後の女性会が招かれました。
各集落から二つずつ、次々と踊りなどが上演され、入所者に大きな感動を与えました。なにしろ参加者が三十三名もの大人数で、いつもだと演芸訪問は一人か二人、多くても数人というのが普通ですから、敬老会にふさわしい賑やかな行事となったようです。